

小学校算数

授業アイデア例②

中学校数学でも適用可能

教科書等に示されている考え方が子どもたちから全部出てこない時は、あえて教師から提示して、その後の交流を深めましょう。

学年	小学校第5学年
単元	四角形と三角形の面積
実施時期	1月頃

第1時 第2時 第3時 第4時 第5時 第6時 第7時 第8時 第9時

単元の中には、複数の考え方を提示して、考えを深める時間が意図的に設定されていることがあります。



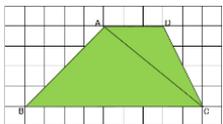
過程 学習活動

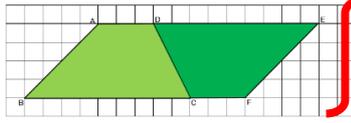
導入

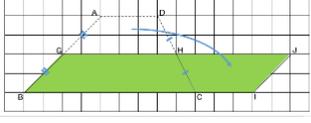
○問題提示
次の台形の面積を求めましょう。
・面積の公式がないからできない。
・三角形や平行四辺形にすればできる。

○課題 台形の面積の求め方を考えよう。

○個人追究
「本時扱いたい考え方が、A～Cの3つだったとします。」

A 

B 

C 

AとBは、子どもから引き出したい。
→思い付かない子どもには、机間指導で、教科書やノートの既習のページを開かせて、気付かせます。

Cは、子どもが思い付くのは難しい。

そこでCの考え方は、無理に子どもから引き出さず、教師が提示して、この後の交流で考えを深めていきます。

○全体交流

解釈 (Cの図を指さして)
・「この図だけ見て、どのように考えたか、説明できる人はいますか。」
・「同じように説明できる人はいますか。」

統合 (A・B・Cの図を指さして)
・「この3つの考え方に共通しているのはどんな考え方ですか。」
・「ようするに、台形のような公式が分からない面積はどうすれば求められるのかな。」

・どの考え方も三角形や平行四辺形にして求めているな。
・面積の求め方が分かっている形に変形しているんだ。

○個別最適な学びの時間

■課題が理解できた子ども
→違う形の台形でも求めることができるのか確かめる活動
→NEW! GIFUウェブラーニングを使ってチャレンジ問題

■つまづいている子ども
→先生と一緒に解決 →仲間の考え方を聞いて解決

展開

終末

教科書の記載で、課題解決に向けて複数の考え方を提示しているような場合など、**他者の考え方にふれ、学習する時間**の提案です。

【教科書の考え方が子どもから出てこない時】

- ・教科書にある考え方は、子どもが全て思い付くようなものばかりとは限りません。
- ・教科書に掲載されている考え方の中には、
 - ▶「容易に思い付く考え方」もあれば、
 - ▶「子どもから引き出すには難しい考え方」もあります。

○指導のポイント

- ・子どもから無理に考えを引き出そうとして時間をかけるよりも、あえて、教師が示し、その後の展開に時間をかけた方が、学びが深まります。

考え方を「どう出るように促すか」よりも、出ている考え方で「どんな学びをするか」

【考え方が出そろったら次は何をするの?】

- ・全体交流で左のような意図的な発問をします。
- ・ここでの発問は、P.4「指導改善のポイント②」の4つの視点を参考にしましょう。

根拠

解釈

統合

発展

他者の考え方を**解釈して自分の言葉で説明**したり、考え方を比較して**共通点や相違点に気付く**ようにする指導が大切です。

どうしてこの指導が大切なのか

全国学調の結果から、「筋道を立てて説明すること」や「図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察すること」に課題があります。

子どもから考え方を無理に引き出そうとして、時間をかけるよりも、図だけを見てどのように考えたのかを解釈したり、自分の言葉で筋道立てて説明したりする指導を継続する方が、思考力・判断力・表現力をより育むことにつながります。

本アイデア例関連

▶ 報告書 (小学校算数)
P.35～57 (2) テープ



▶ 報告書 (中学校数学)
P.62～69 (9) 合同

